

学校だより

26年度 第 64号

No.126

桜水だより

平成27年 3月 3日

須賀川市立第一小学校

☎75-2851

あれから4年 その2

間もなく大震災から4年となります。当時の学校の様子を紹介し、あらためて教訓としていきたいと思えます。「震度6以上でお迎え」とした、切迫した日々の様子がわかります。

未曾有の災害が起き、大混乱となったあの日3月11日午後2時46分、児童は学期末清掃で、ワックス清掃を終了し、机のない教室で下校の準備中であつた。非常に大きな揺れがあり、すぐさま放送を入れ、教室待機指示。再度の激震。その後すぐに停電となり、校舎内を走って避難を指示。窓ガラスが破損、壁が崩落、戸棚が倒壊など。

顔面蒼白の児童、驚きと恐怖不安で声も出ない様子の児童を校庭に整然と避難させた。校庭の南面が崩落、かつ、中心部分から2本の亀裂が入っていることが判明。校舎の外壁の多くが断続的な余震で崩落するため、児童を東側に向けて座らせた。時期はずれの突風と雪が舞う。

寒さが一段と厳しくなり、一時体育館へ避難を試みたが、余震が断続的にあり、体育館も危険が感じられたため、校舎のロータリー前の松の木周辺へ移動。午後6時40分、全員の児童を保護者の手元に渡すことができた。

須二小と須一中での教育活動を要請した。1～3年の児童の通学路、安全確保、確認を最優先。現在の被害状況、学区内の道路、家屋、水道の実態は、等々。今回の震災では、連絡網が全て不通となり、唯一の一斉周知方法は報道機関のみであつた。今後「震度6弱以上は、連絡なしで保護者のお迎えをお願いする」ことを保護者と確認することにした。

「やった！」の大歓声。震災後の7月、間借りしている須二小体育館で「2学期から、全校生一緒に生活できるよ」と話した時の子ども達の声である。

「東日本大震災 学校対応の記録」 須賀川市教育委員会

須賀川一小的部分より抜粋

桜水だよりNo.6 1、7 2などでお知らせした内容を再掲いたします。

「①震度6以上の地震が発生したとき」は、お迎えをお願いします。

「②固定電話、携帯電話が不通になったとき」は、非常事態です。お迎えをお願いします。

「③特別警報が出た場合」はお迎えをお願いします。

メール一斉配信が使えるときは、メールでもお迎えを依頼します。メール一斉配信に登録しておられないご家庭もおありでしょうから、お迎えが一段落した後、お迎えのないご家庭に固定電話・携帯電話でお迎えの依頼をします。そのほか、事故・犯罪などで通学路に危険が生じた場合など、メールでお迎えを依頼する場合もあるかも知れません。